

## 令和三年度卒業式式辞

厳しかった冬の寒さも少しずつ和らぎ、日本各地から新たな命の芽吹きを知らせる便りが届き始めています。この佳き日に、大阪府立鳳高等学校 第74回卒業式を挙行いたしましたところ、本日は、新型コロナウイルス感染症への感染予防の観点から、各ご家庭一名のみとはなりましたが、保護者の皆様のご列席を賜ることができましたことを、大変嬉しく思っています。保護者の皆様におかれましては、高校卒業という節目に当たり、このように立派に成長されたお子様の姿をご覧になるにつけ、感激も一入のことと存じます。今日まで深い愛情を注いでこられた皆様に敬意を表しますとともに、高いところからではございますが、心からお祝いとお喜びを申し上げたいと思います。本日は、誠におめでとうございます。この式の後は、ご家族の皆様全員でお子様の卒業を祝ってあげてほしいと思います。

さて、本日、栄えある卒業証書を授与された、本校、第74期生319名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの門出を、心よりお祝いたします。

皆さんが、この卒業の日を迎えることができたのは、皆さん自身の努力の成果であることは言うまでもありませんが、その努力を支え続けてくれた多くの人の存在があったことを深く心に刻み、今日はその人たちに改めて感謝の気持ちを伝えてほしいと思います。

皆さんは、これからそれぞれの希望に応じた進路へと新たな歩みを進めることとなります。その饒として、私が本校の校長として皆さんと共に過ごしたこの二年間、繰り返し伝えた二つの言葉をもう一度贈りたいと思います。

その一つめは儒家『論語』の一節です。「君子もとより窮す。小人窮すればここにみだる。」意味は、「君子も困窮することはある。しかし、小人は困窮すれば行いまで乱れてしまう。そこが君子と小人の違いだ。」というものです。

皆さんが高校二年生だった令和二年度は、新型コロナウイルス感染症へ対策のため四月から六月までの約三カ月間、学校は臨時休校となりました。勉強が遅れることへの不安や部活動に集中できないもどかしさ、友達と会えない寂しさなど、これまでに体験したことのない状況が長く続き、大きな戸惑いを感じたことと思います。学校が再開した後も行事や部活動など様々な活動が縮小あるいは中止となるなど、例年なら、皆さんが活躍できたはずの場所が少なくなりました。皆さんのために計画した野外活動が実施できなかったことは、未だ忘れることのできない残念な出来事です。しかし、それでも皆さんは前を向いて力強く歩みを進めなければなりません。『論語』の言葉を借りて、私が皆さんに伝えたかったのは、どんな逆境にあっても諦めることなく、自分の力で自分を「鍛える」ということの大切さです。私は、これまで誰も経験したことのない未曾有の出来事に見舞われた皆さんを勇気づけるため、こんな時だからこそ決して心を乱すことなく、自らの言動をコントロールし、前向きに対処できる力強さを身に付けてほしいという思いを伝えたいつもりです。

そしてもう一つは、白樺派の文学者、武者小路実篤の短い詩です。「もう一步。いかなる時も自分は思う。もう一步。今が一番大事な時だ。もう一步。」。「鍛える」ということの大切さを伝えたその先で、皆さんが更に活躍できるよう、私は「もう一步」という言葉を意識してほしいと言いつづけました。今日皆さんは卒業しますが、その皆さんにとっても、将来の第一志望の夢の実現のためには、やはり今が一番大事なときです。つらくなった時や、目標が遠のきかけたような時には、この詩を思い出し、「もう一步。今が一番大事なときだ。」と声に出して、もう一步の踏ん張りを見せてほしいと思います。

昨今、世界では、人工知能、ビッグデータ、Internet of things、ロボティクス等の高度な先端技術が発達し、既に Society5.0 とされる時代が到来しつつあると言われていています。産業構造や社会システムは非連続的とも言えるほどの急激なスピードで変化しており、この予測困難な社会において、人生百年とも言われる時代を生き抜くために、皆さんに求められる能力は、今後、刻々と変わり続けていくものと考えられます。多くの仕事が自動化される一方で、新たな業種や業態が現れることも予測されており、2030年代には約65%の人達が、今は存在していない職業に就くだろうとも言われています。十年後の皆さんは、現在存在すらしていない職業に就いているかもしれません。このような時代を生きていく皆さんには、社会の動きを見据え、強く生き抜くために必要な資質・能力を身に付けることが求められます。その時にこそ、ここ鳳高校で過ごした日々が皆さんの支えになると思います。

鳳高校の前身である旧制鳳中学校には「誠実・剛健・進取」という三つの綱領がありました。この綱領は皆さんが学んだ現在の鳳高校にも脈々と受け継がれています。私達教職員は皆さんが夢や志の実現に向かって、しっかりと取り組める誠実さと剛健さ、多様な人々と協働して新たな価値を生み出そうとする進取の気性を身に付けてくれるよう、今日まで皆さんを懸命に支えてきました。

ここから先は皆さんの番です。鳳高校の百年の歴史と、現に皆さんと同じ時を過ごした先生方の熱い思いに応え、それぞれの進路先においても自ら主体的に学びに向き合い、真に正しく必要な情報を取捨選択できる力を身に付けられるよう、これからは自分で自分を鼓舞してください。そして、多くの人々との対話を大切に、様々な人たちと協力しながら、目標の達成に向けた努力ができる柔軟性を身に付けることで、大きく成長した姿を、私達教職員に見せてほしいと思っています。

結びになりますが、皆さん、健康にはくれぐれもご留意ください。先程皆さんが斉唱してくれた本校の校歌の中に「起て一千の鳳雛（ほうすう）よ」という一節がありました。第74期生、319名の卒業生の皆さん。皆さんの一人ひとりが、今、鳳雛としての誇りを胸に本校を巣立ち、やがて天高く翔る鳳へと成長して、母校鳳高校の次の百年の歩みを照らす指針となってくれることを祈念して、卒業式の式辞と致します。

令和四年三月一日

大阪府立鳳高等学校  
校長 田中 肇